

経済産業省のフェムテック推進について

2023年7月
経済産業省 経済産業政策局
経済社会政策室

目次

1. 女性活躍推進の現状
2. 女性の健康課題
3. フェムテックとは
4. 経済産業省の取組（フェムテック等サポートサービス実証事業）

1. 女性活躍推進の現状

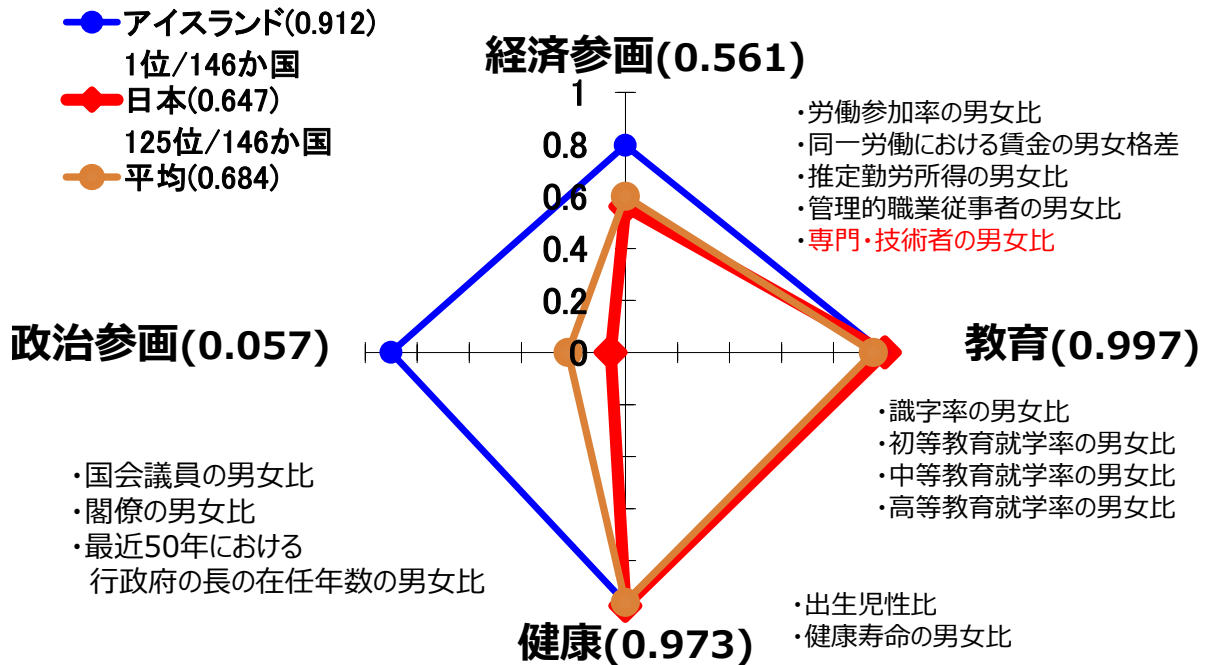
「ジェンダー・ギャップ指数2023」（世界経済フォーラム）

- 「ジェンダー・ギャップ指数（GGI）2023」における日本の順位は、146か国中125位。

ジェンダー・ギャップ指数（2023） 主な国の順位

順位	国名	値
1	アイスランド	0.912
2	ノルウェー	0.879
3	フィンランド	0.863
4	ニュージーランド	0.856
5	スウェーデン	0.815
6	ドイツ	0.815
15	英国	0.792
30	カナダ	0.770
40	フランス	0.756
43	アメリカ	0.748
79	イタリア	0.705
102	マレーシア	0.682
105	韓国	0.680
107	中国	0.678
124	モルディブ	0.649
125	日本	0.647
126	ヨルダン	0.646
127	インド	0.643

ジェンダー・ギャップ指数（2023） 各分野ごとの比較

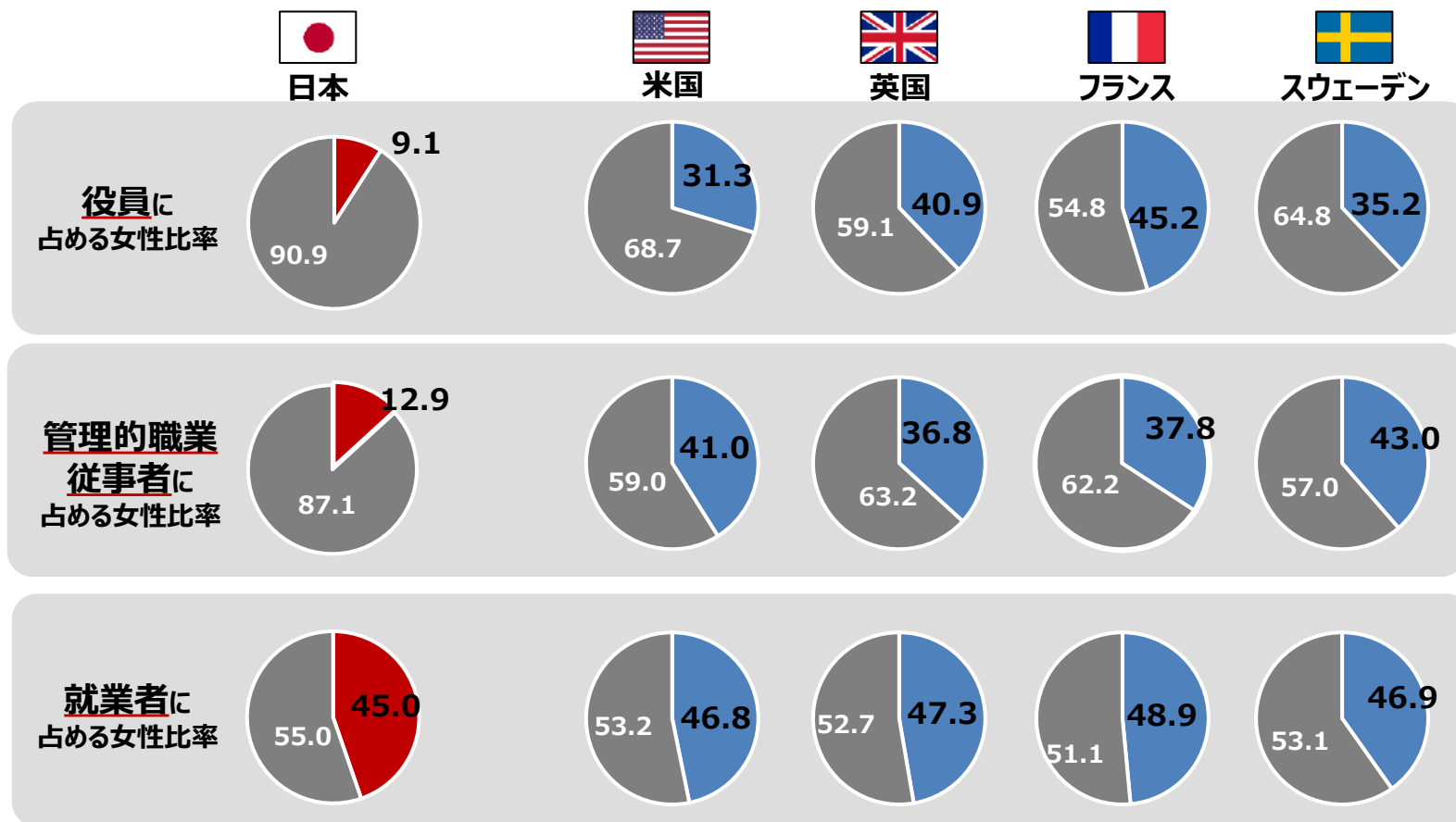


※ジェンダー・ギャップ指数（Gender Gap Index : GGI）
経済、教育、政治、保健の4つの分野のデータから作成され、0が完全不平等、1が完全平等を意味する。

- (備考) 1. 世界経済フォーラム「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告書(2023)」より作成
2. 日本の数値がカウントされていない項目は赤字で記載
3. 分野別の順位：**経済（123位）**、**教育（47位）**、**健康（59位）**、**政治（138位）**

女性比率の国際比較

- 日本においては、就業者に占める女性比率は諸外国とほぼ同レベルとなっているが、役員および管理的職業従事者の女性比率が著しく低い。



1. 「管理的職業従事者」及び「就業者」については、「令和5年版男女共同参画白書」に基づき作成。日本、米国は2022年、英国は2019年、その他の国は2021年の値。
2. 「管理的職業従事者」とは、就業者のうち、会社役員、企業の課長相当職以上、管理的公務員等。また、「管理的職業従事者」の定義は国によって異なる。
3. 「役員」については、日本は、東洋経済新報社「役員四季報」に基づき作成、2022年の値。米国、英国、フランス、スウェーデンは、OECD “Social and Welfare Statistics”に基づき作成、2022年の値。

(参考) 東証プライム市場上場企業における女性役員の比率目標 2030年までに30%以上 第69回男女共同参画会議における岸田文雄内閣総理大臣発言

令和5年4月27日 男女共同参画会議
岸田文雄内閣総理大臣発言

(首相官邸HPより)



本日は、女性版骨太の方針2023について議論を行いました。

女性活躍の推進を通じて多様性を確保し、イノベーションに繋げることは、新しい資本主義や包摂的な社会の実現に向けて大変重要です。

このため、本年の「女性版骨太の方針2023」の策定に向けて、3つの重要事項に沿って、政策の具体化を進めます。

第1に、企業における女性登用の加速化です。企業の女性役員比率の更なる向上に向けた取組を強力に進めます。まずは、日本を代表するプライム市場上場企業について、2030年までに女性役員比率を30パーセント以上とすることを目指します。この実現に向けて、短期的な数値目標の設定や行動計画の策定など、従来よりも踏み込んだ具体策を講じ、社会全体における女性登用の促進に弾みをつけてまいります。

第2に、女性の所得向上・経済的自立に向けた取組の強化です。いわゆるL字カーブの解消に向けて、多様で柔軟な働き方の促進等により、非正規雇用の正規化を引き続き進めるとともに、女性のデジタル人材の育成等のリスキングのための環境を整備いたします。

第3に、女性が安心できる社会に向けた、あらゆる暴力の根絶です。現在、国会において配偶者暴力防止法の改正の審議が行われていますが、被害者の保護のみならず、自立支援や、公的機関と民間団体の新たな連携の仕組み等を具体化し、女性が安心できる社会を実現いたします。

本年のG7では、首脳会合と全ての大臣会合の議論において、ジェンダーの視点が反映されています。これを一過性のものとせず、国内政策にも活かせるよう、引き続き取り組むことが重要です。

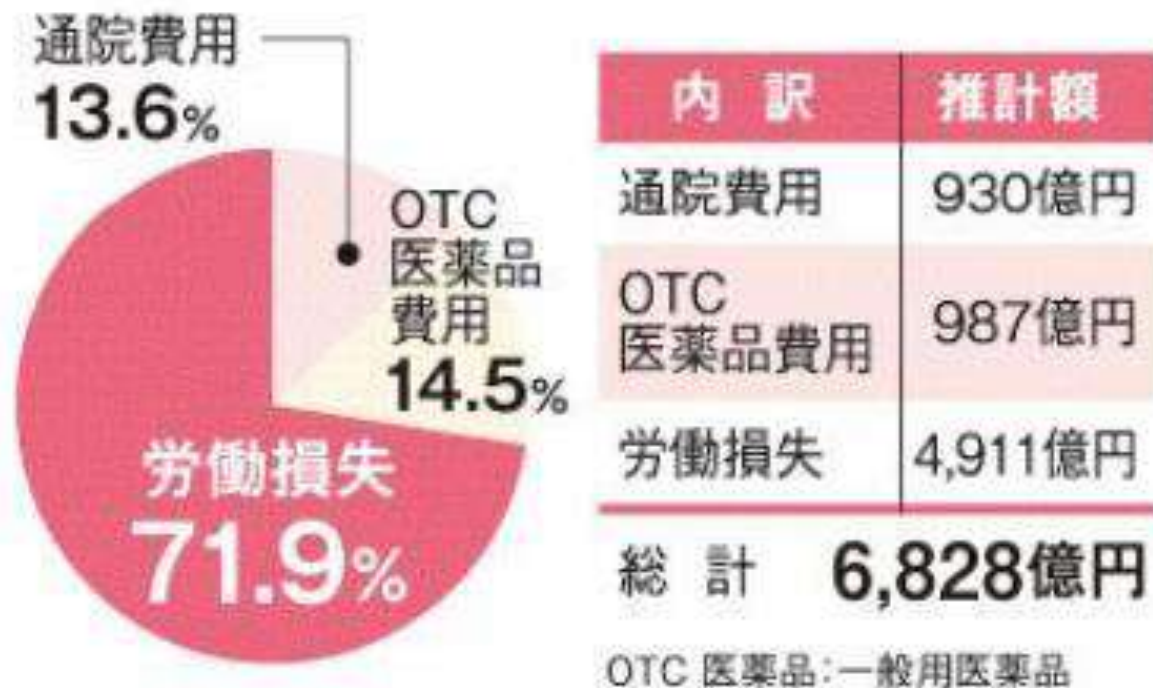
小倉大臣を中心に、関係閣僚が協力し、女性版骨太の方針の取りまとめに向け、政策の具体化を進めてください。

2. 女性の健康課題

女性特有の健康課題への対応の重要性

- 民間調査によると、月経前症候群(PMS)*による労働損失は**4,911億円**と試算されている。
- 女性が働きやすい環境整備を進め、より多様な人材の活躍を推進することが、持続的な企業価値の創造の観点から重要。

■ 月経随伴症状による 1年間の社会経済的負担

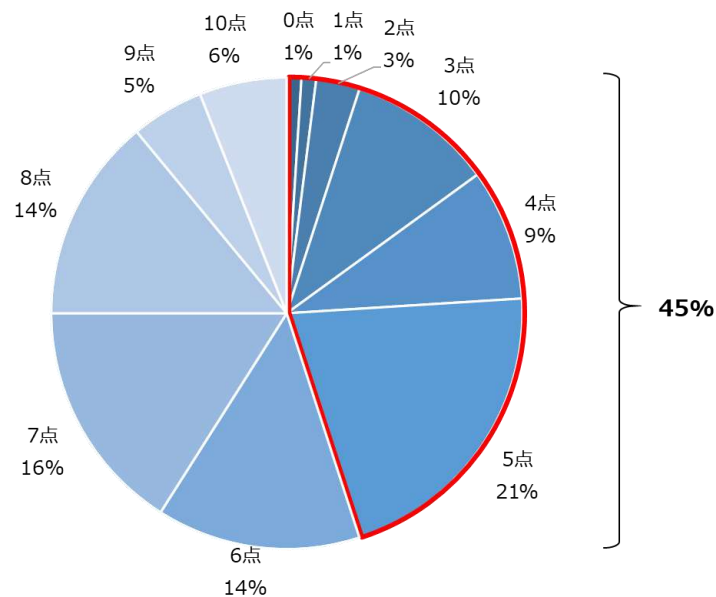


*月経前症候群 (PMS)
月経前3～10日間続く精神的あるいは身体的症状。
情緒不安定、イライラ、抑うつ、集中力の低下、めまい、
腹痛、頭痛、腰痛等。

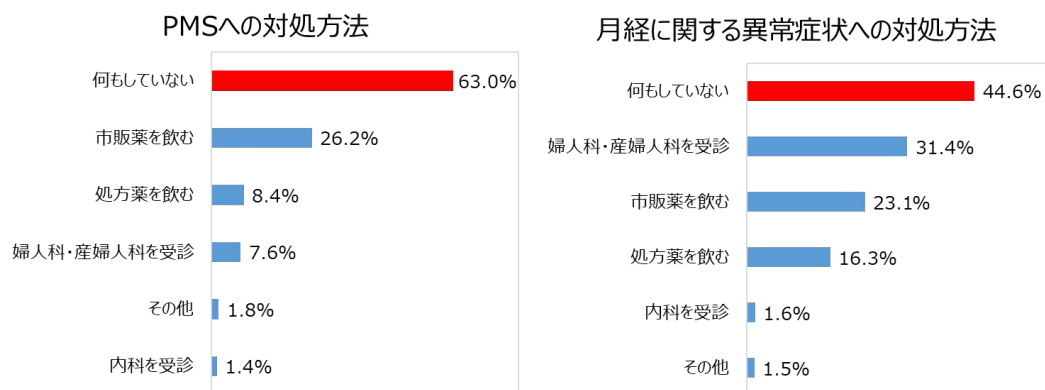
希望するライフとキャリアの両立の難しさ：月経

- 月経や月経前症候群（PMS）*により多くの女性が仕事のパフォーマンス低下を経験。
- 有効な対処を行う女性は少なく、特に効き目があるとされる低容量ピルの服用率は非常に低い。

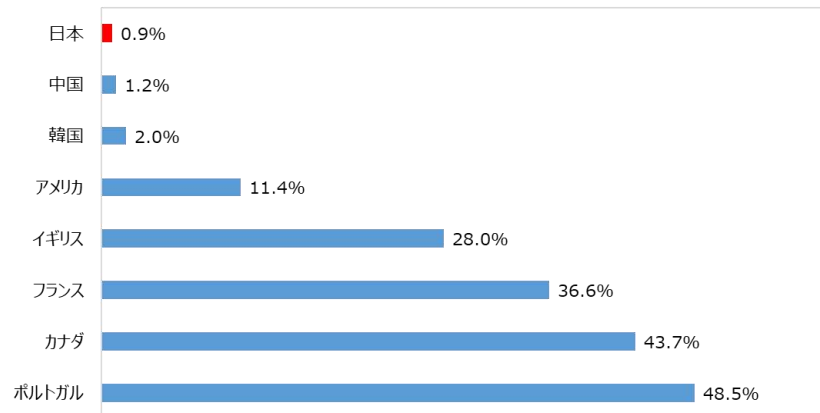
月経に関連した症状による仕事のパフォーマンスへの影響（元気な状態を10点とする）



月経に関連する症状への対処



低用量ピルの服用率



【出所】

左・右上：日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査2018」を基に作成
 右下：国連経済社会局人口部「WORLD CONTRACEPTIVE USE 2019」を基に作成

月経前症候群（PMS）：月経前3～10日間続く精神的あるいは身体的症状。情緒不安定、イライラ、抑うつ、集中力の低下、めまい、腹痛、頭痛、腰痛等。

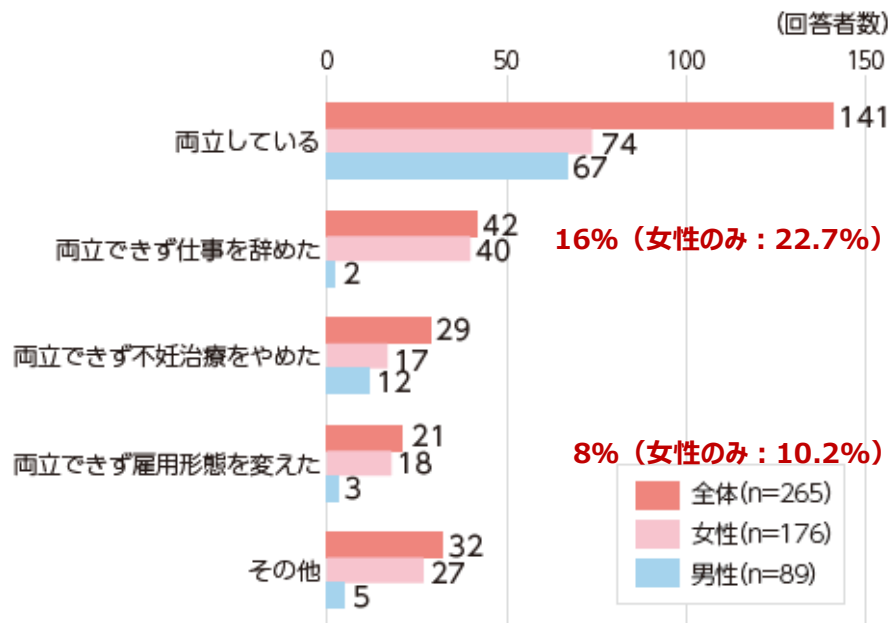
不妊治療と仕事の両立

- 不妊治療と仕事の両立ができずに、**仕事を辞めた又は雇用形態を変えた女性は32.9%**（23%が離職、10%が雇用形態を変えた）また、10%が不妊治療を断念している。
- 一方で、3分の2の企業は、不妊治療を行っている従業員を把握しておらず、有効な対策につながっていない可能性も。

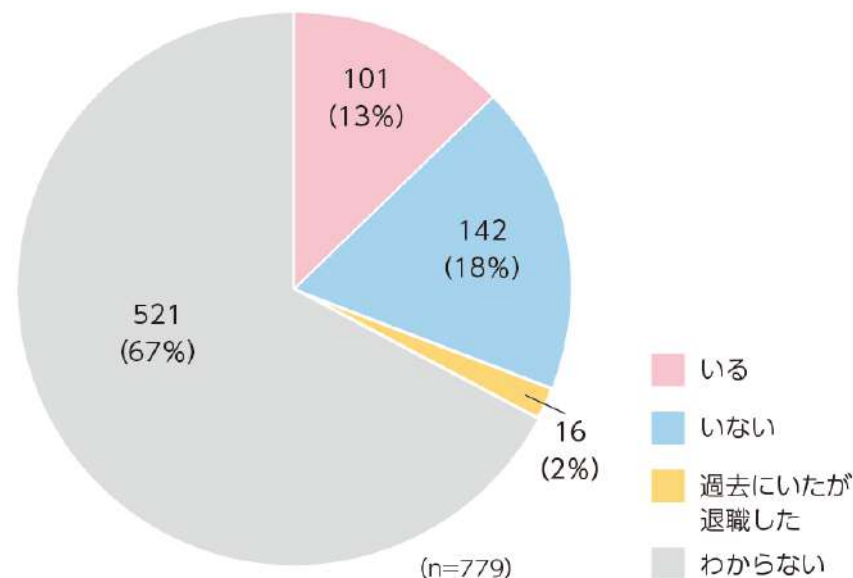
不妊治療に関するアンケート結果

【不妊治療をしたことがある人】

■ 不妊治療と仕事の両立を、現在（過去）している（していた）か。



■ 会社に不妊治療を行っている従業員がいるか。



(注: 「いる」と「過去にいたが退職した」の両方に回答した企業が1社含まれる)
※円グラフのデータラベル: 回答数 (回答数のパーセンテージ) 以下、同じ。

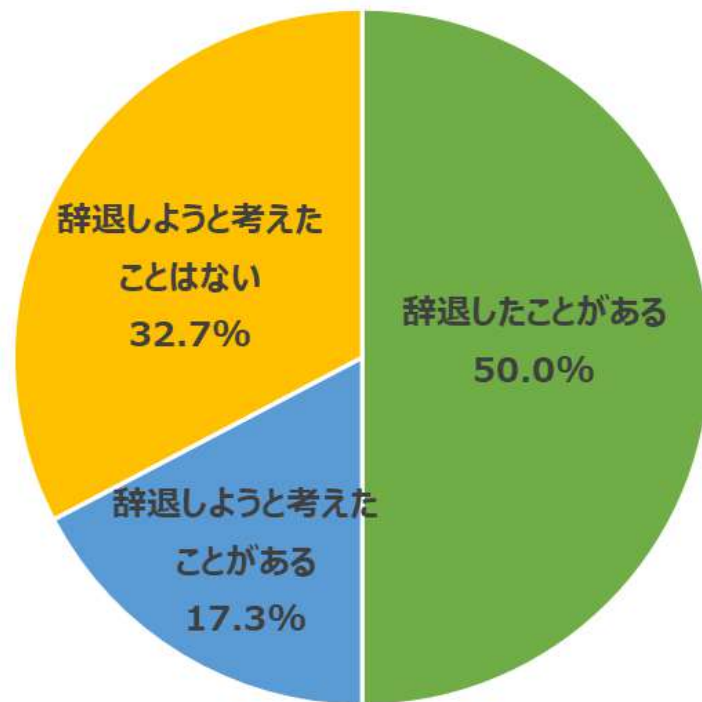
【出所】厚生労働省

「不妊治療と仕事の両立に係る諸問題についての総合的調査研究事業調査結果報告書」(2018年3月)

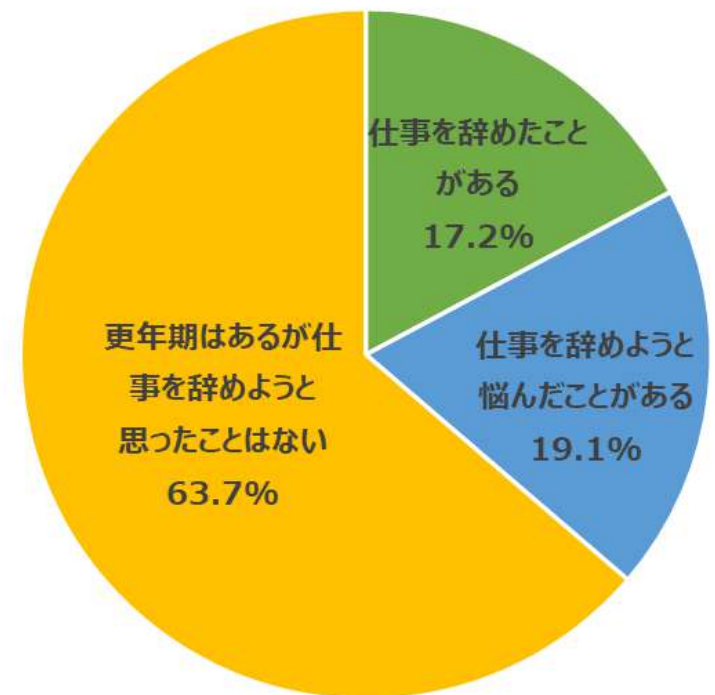
更年期症状とキャリアとの両立

- 更年期症状の時期は、管理職以上ポストに就く年齢とも重なり、半数の女性が昇進を辞退したことがある。
- 仕事を辞めたことがある人は17%にもものぼる。

更年期障害の症状による昇進への影響



更年期障害の症状による退職への影響



女性の健康に関するサポートの重要性

14社3,424名の回答結果

周囲のサポート

男性社員は女性特有の症状に
理解がある

上司・同僚は
頼りになる

職場の雰囲気は
友好的



ポジティブな影響

月経困難症・PMS・更年期症状
が緩和する

ワークエンゲージメント
仕事満足度
が高い

ヘルスリテラシー
が高い

- 周囲のサポートがあると感じている女性の方が、
 - －月経困難症・PMS・更年期症状が緩和する。
 - －ワークエンゲージメントや仕事満足度が高い。
 - －女性自身のヘルスリテラシーも高い。
- 「男性の理解」は23～70%と企業間でもっとも差がある結果であった。

経済産業省におけるフェムテック推進

- イノベーションを創出し、企業の競争力を高めるため、多様な人材の活躍が重要。
- しかし、女性の場合、月経や更年期といった特有の健康課題により、十分に能力を発揮できない、仕事を継続できないといった状況に陥ることがある。
- プライベートなこととして個人の我慢に委ねるのではなく、女性が生き生きと、能力を最大限発揮して仕事を行えるよう、テクノロジーを用いて健康課題に対処するツールとして、フェムテックを推進。



企業の価値創造を促進

フェムテック推進の位置づけ

- 2021年に初めて、骨太方針等の政府決定文書で明記。2023年も引き続き推進。

経済財政運営と改革の基本方針 2023（骨太方針）

2023/6/16閣議決定

4. 包摂社会の実現 （女性活躍）

女性版骨太の方針2023に基づき、L字カーブの解消に資するよう、女性活躍と経済成長の好循環の実現に向けて、（中略）・・・取組を強化する。（中略）DV対策、性犯罪・性暴力対策、困難な問題を抱える女性への支援に関する法律の円滑な施行、事業主健診の充実、**フェムテックの利活用**やナショナルセンター機能の構築を含めた女性の健康支援、W P S等により女性が尊厳と誇りを持って生きられる社会を実現する。

新しい資本主義のグランド デザイン及び実行計画 成長戦略等のフォローアップ 2023

2023/6/16閣議決定

・女性の健康の包括的な支援を推進するため、月経困難症や更年期障害等の女性に特有な健康課題の把握や、エビデンスに基づく確かな支援を行うための研究等を引き続き進めるとともに、関連のある医学会において女性の健康に係る指針の策定を行う。また、**企業・地方自治体でのフェムテック製品・サービスの利活用の実証を支援し、実証事例を横展開する。**

女性活躍・男女共同参画の重点方針 2023（女性版骨太の方針）

2023/6/13すべての女性が輝く社会づくり本部決定

②事業主健診の充実等による女性の就業継続等の支援

女性の就業率が上昇する中、仕事と女性の健康課題等（月経関連症状、医学的に妊娠・出産に適した年齢など妊娠・出産に関すること、更年期症状等）との両立が課題となっている。（中略）**フェムテックを利活用し、企業、医療機関、自治体等が連携して行う実証事業への支援を引き続き行うとともに、その全事業について共通指標による効果測定を実施し、心身の不調による低パフォーマンス状態の改善や、キャリアへの影響等を分析し公表する。**

3. フェムテックとは

フェムテックとは？

- Female (女性) とTechnology (テクノロジー) からなる造語であり、生理や更年期などの女性特有の悩みについて、先進的な技術を用いた製品・サービスにより対応するもの。

フェムテックの主な領域

月経

妊娠・不妊

産後ケア

更年期

婦人科系
疾患

セクシャル
ウェルネス

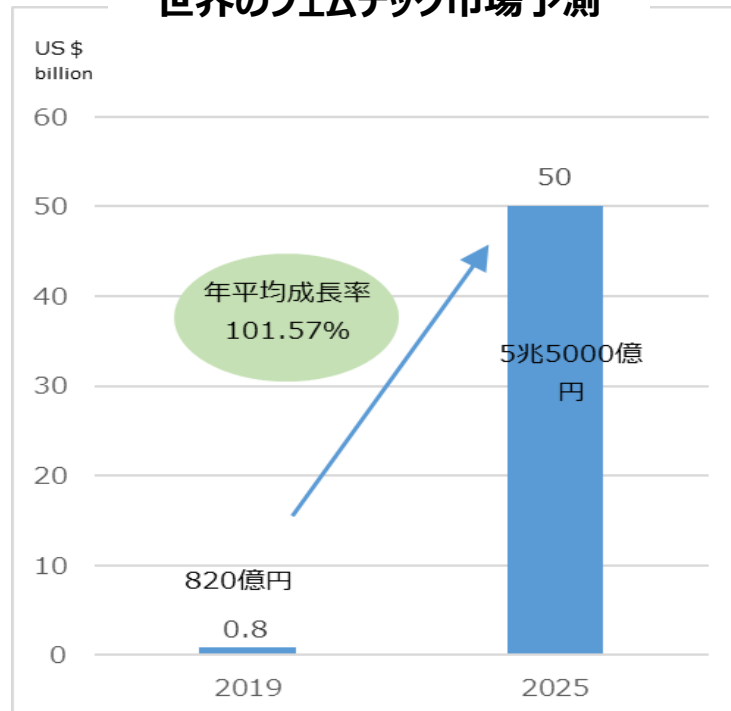
*ウェルネス：単に身体的な健康だけを意味するのではなく、生活の質（クオリティオブライフ）や、生きがいに関連した健康全般のこと

セクシャルウェルネス：単に病気や機能不全、体調不良の状態を意味するものではなく、個人、カップル、家族において、その性にまつわる身体的、感情的、精神的、社会的な健康と幸福をも含む概念

フェムテック産業の拡大

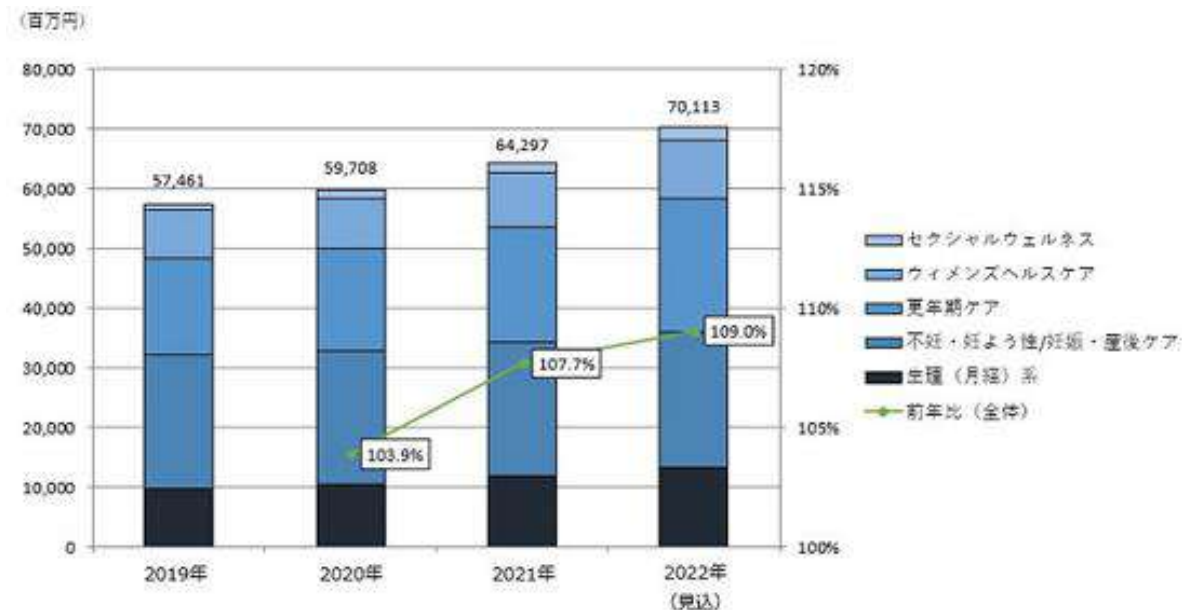
- 2016年頃からの新興市場。2019年時点で世界全体の市場規模が820億円、投資額が640億円と小さいが、成長傾向。2025年市場規模は5.5兆円と予測。
- 日本におけるフェムケア、フェムテックの市場規模は、2021年に約643億円となり、2022年は700億円を超えるとの見込み。
- 全人口の半分をターゲットとする産業であり、今後さまざまな製品・サービスの開発・投入を通じて、市場の成長が期待される。

世界のフェムテック市場予測



【出所】米調査会社フロスト&サリバン（2018年、2019年発表）

日本におけるフェムケア&フェムテック
（消費財・サービス）市場規模推移

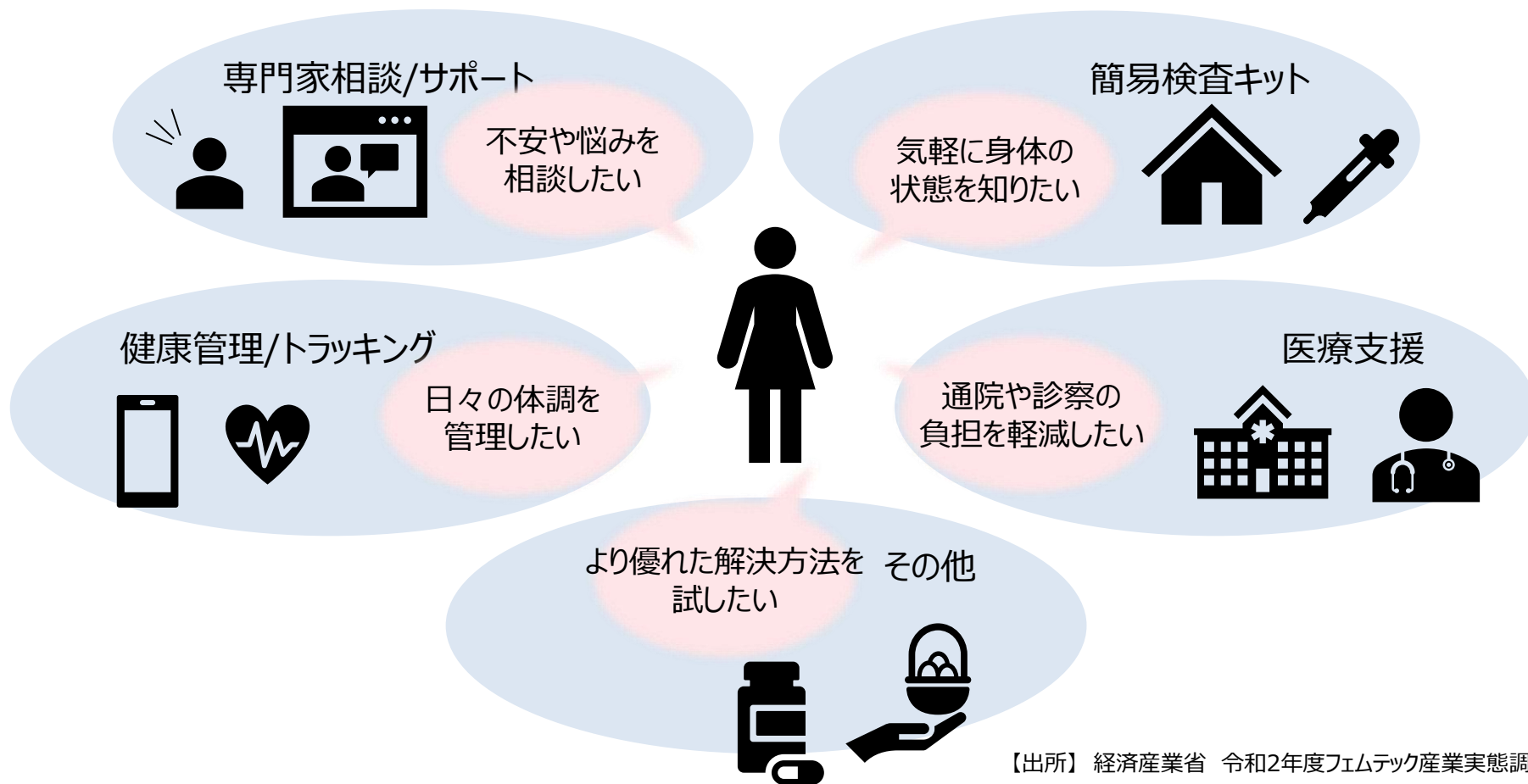


【出典】矢野経済研究所調べ

フェムテックの製品・サービスカテゴリー

- 現在普及しているフェムテックの製品・サービスは以下のように分類できる

フェムテックの製品・サービス



フェムテック等の製品・サービス例

月経

ルナルナ

過去の生理日や特定排卵日*から算出した独自のアルゴリズムで次の生理日や排卵日を予測する月経管理を中心に、妊活のための基礎体温記録、出産を控えている人向けに妊娠日数管理、低用量ピル(OC/LEP)の服薬支援機能、スポーツをする人向けに試合・合宿の管理ができるサービスを提供。
*病院での検査や、市販の排卵日検査薬で排卵日と特定された日



妊活

F check

卵巣年齢を自宅で簡単にセルフチェックできる日本初の検査キット。製品に含まれる専用ツールを使って自分で0.1ml以下の血液を採血後、血液を検査センターに送ると投函後2週間程度で結果がわかる。検査結果はスマートフォンやPCで専用のウェブサイトへアクセスすることで確認可能。



不妊治療

cocoromi

客観的な統計データや、ユーザーと同質性の高いデータを閲覧し、治療法選択や医療機関選別に役立てることができるサービス。不妊治療に関する統計データ、同質データ、パーソナルデータが閲覧・管理できる。



周産期

iCTG

胎児の心拍と妊婦のお腹の張りを、病院や自宅などで測ることが出来る医療機器。妊婦のお腹にセンサーをあて計測すると、Bluetooth接続でスマートフォンやタブレットのアプリケーション内に結果が表示され、遠く離れた医師が診断に活用することが可能。分娩の兆候や母子の健康状態を遠隔でモニタリングすることができる。



産後・婦人科疾患

リングエコー

東京大学医学系研究科・工学系研究科での医用超音波技術を基にした、リング型超音波振動子を用いた革新的な乳房用画像診断装置。乳房を圧迫しないため、検査時の痛みもなく、またX線マンモグラフィーでは精度が落ちてしまう高濃度乳房に対しても精度が下がらない超音波技術を使用して検査を行う。

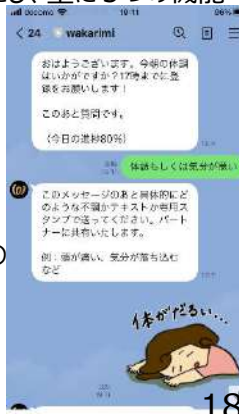


更年期

よりそる

LINEで配信されるココロとカラダの見守りサービス。40代～50代の女性、もしくはカップルを対象にし、主に5つの機能を提供。

- ① 日々の女性の心身の状態を登録 (パートナーがいれば毎日LINEで共有)
- ② 体調のデータ化と可視化 (定期的に不調の度合いを数値化)
- ③ 更年期についての情報の提供 (カップルの方には双方に学んでもらう)
- ④ コミュニケーション介入でカップル間の快適なコミュニケーションをサポート
- ⑤ 1か月に二回以上のテキストと1回のWEBカウンセリングを心理カウンセラーが実施



国内フェムテック事業者



2023年最新版 国内フェムテックプレイヤーマップ / Femtech Players Map Japan 2023

IT・デジタル

Deep Tech

月経/避妊



BéA

妊娠/不妊



更年期



YStory

ヘルスケア/ホルモン



ALPS/ALPINE

MITSUFUJI

canvas

婦人科系疾患



～データ駆動型技術によるコア技術と製品・サービスのDeepTech、データ分析～

令和4年度版「なでしこ銘柄」選定企業における 女性が活躍しやすい環境づくりやフェムテックに関する取り組み

三井不動産株式会社

- 三井不動産が開発・提供する健康経営推進に資するソリューションサービス「&well」の活用（女性の健康課題についてウィークリープログラムでの動画やコラムでリテラシー向上を図る、クイズ形式で習得度のチェック等）
- 骨密度測定体験・乳がん検診体験等、オンライン測定会の開催
- 社内トイレにて生理用品を無料設置、一部オフィスビルに設置予定
- 全従業員に対して女性特有の健康課題に関するe-learningを実施



「&well」



乳がん検診
体験

楽しみながら体調管理。
気づいたらできる。
だから、つづく。

健康の自己管理って、意外とつづかないから、
「&well」は、健康活動をこれから取り組む方に向けて、
無理なくはじめられて、楽しくつづけられる、
様々なプログラムを用意。
ポピュレーションアプローチの支援をサポートします。

株式会社丸井グループ

Well-being Village

わたしを、愛そう



みんなと一緒に考える 心と身体のよりよい状態

- ウェルビーイングを自社の経営目的として位置付け、健康経営を通じて推進
- 女性の健康をテーマにしたオンラインセミナーの開催
- 子宮頸がんの受診者を増やすため無料検査キットを配布
- 法人向けフェムテックサービス「ルナルナ オフィス」を導入、オンラインの婦人科診療と低用量ビル処方を受けられる「月経プログラム」を提供
- 手挙げによる社員プロジェクトが、マルイ店舗にてフェムテックイベントを開催
- 生理用ナプキンを常備し無料で提供するアプリサービス「OiTr」（オイテル）の設置

顕彰制度を通じた健康経営に取り組む法人の見える化

- 日本健康会議（※）が「健康経営優良法人」を認定。特に優れた法人については、「ホワイト500」（大規模法人部門）、「ブライト500」（中小規模法人部門）の冠を付加。
- 経済産業省と東京証券取引所が共同で「健康経営銘柄」を選定。
- 制度開始以降、健康経営に取り組む企業の裾野は急速に拡大。

（※）平成27年7月に発足。経済界・医療関係団体・自治体・保険者団体のリーダーが手を携え、健康寿命の延伸とともに医療費の適正化を図るための民間主導の活動体。2021年に新たな実行委員体制のもと第二期として「日本健康会議2025」を開始し、新たな活動目標となる「健康づくりに取り組む5つの実行宣言2025」を採択。

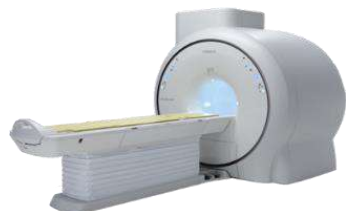


(参考) 健康経営のフレームワーク

【健康経営度調査の評価項目】 ※約180問

1. 経営理念	・ <u>経営トップのコミットメント</u> 、統合報告書への記載等を通じた <u>社内外への発信</u>
2. 組織体制	・社長や役員が健康づくり責任者になる等、 <u>経営層が参加する組織体制</u> の構築 ・ <u>専門職の関与</u> 、健康保険組合との連携体制の構築
3. 制度・施策実行	・ <u>計画の策定</u> （例：従業員の健康課題を把握、健康課題解決のために有効な取組を設定、健康経営で実現する目標値と目標年限を明確化）
	・ <u>土台作り</u> （例：ヘルスリテラシー向上のための研修を実施、ワークライフバランスや病気と仕事の両立に必要な就業規則等の社内ルールの整備） ・ <u>施策の実施</u> （例：食生活の改善、運動機会の増進、感染症予防、メンタルヘルス不調者への対応、受動喫煙対策、女性の健康課題への対応）
4. 評価・改善	・実施した <u>取組の効果検証</u> 、検証結果を踏まえた <u>施策の改善</u>
法令遵守・リスクマネジメント	・定期健診やストレスチェックの実施、労働基準法、労働安全衛生法の遵守

検診等に関する費用補助



ウェアラブルデバイス支給



健康づくりセミナー



ジム利用の費用補助



女性特有の健康課題への対応

【今年度の変更点】

- 女性の健康課題に取り組む企業をより一層促進するため、関連施策への参加状況を開示しているかどうかを評価の対象とする。
- さらに、選択必須項目としていた、女性の健康課題に関する認知向上のための取組状況を問う設問（Q56）及び行動変容促進の取組を問う設問（Q57）について、両設問への回答をもって認定要件とする。
- また、不妊治療に対する支援については、昨年度まで、女性の健康の設問で問うていたが、女性に限定されないことから、「仕事と治療の両立支援」の選択肢に移動する。

令和5年度健康経営度調査 修正案（赤字箇所）

★◎ Q57. 女性特有の健康関連課題に関する行動を促すために、どのような取り組みを行っていますか。（いくつでも）

◆法令に基づく妊娠中の従業員に対する業務上の配慮に留まる取り組みは除きます。
◆今回調査から、認定要件がQ56 or Q57からQ56 and Q57に変更しています。

<input type="checkbox"/>	1 婦人科健診・検診への金銭補助を行っている（がん検診を含む）
<input type="checkbox"/>	2 婦人科健診・検診の受診に対する就業時間認定や有給の特別休暇付与を行っている
<input type="checkbox"/>	3 従業員や保健師等による女性の健康専門の相談窓口を設置している（メールや電話等による相談を含む）
<input type="checkbox"/>	4 女性特有の健康関連課題に対応可能な体制を構築している（産業医や婦人科医の配置、外部の医師や相談窓口の紹介等）
<input type="checkbox"/>	5 女性の健康づくりを推進する部署やプロジェクトチームを設置している
<input type="checkbox"/>	6 妊婦健診等の母性健康管理のためのサポートの周知徹底を行っている
<input type="checkbox"/>	8 生理休暇を取得しやすい環境を整備している（有給化や管理職への周知徹底等）
	⇒ある場合、2022年度の生理休暇取得総日数 <input type="text"/> 日（一人当たり平均ではなく法人全体）
	※単に生理休暇の制度があるだけでなく、利用を促進する環境の整備が求められます。
<input type="checkbox"/>	9 更年期症状や更年期障害の改善に向けた支援を行っている（通院の際の有給の特別休暇付与等）
<input type="checkbox"/>	10 骨密度低下（骨粗鬆症）予防の支援を行っている（骨密度測定、サプリ提供等）
<input type="checkbox"/>	11 女性専用の休憩室を設置している（※法律上設置義務のある休養室は除く）
<input type="checkbox"/>	12 月経随伴症状の自己管理を支援するツールやアプリを提供している
<input type="checkbox"/>	13 その他 <input type="text"/>
<input type="checkbox"/>	14 特に行っていない ⇒評価項目不適合

※昨年度まで「病気の治療と仕事の両立支援」としていた認定要件名について、不妊治療など病気の治療にとどまらない項目を含むことから、「仕事と治療の両立支援」に変更する。

4. 経済産業省の取組 (フェムテック等サポートサービス実証事業)

フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金

- フェムテック企業、導入企業、医療機関、自治体等が、連携して実施する、妊娠・出産等のライフイベントと仕事の両立、ヘルスリテラシー向上等の個人のウェルビーイング実現に向けた実証事業に係る費用の一部を補助。
- サポートサービスの普及に係る課題等の解決を促進し、地域に根ざした連携の全国へのヨコ展開を図る。

補助対象事業

- フェムテック等※の製品・サービスを活用した、ウェルビーイング実現に向けた事業
【事業例】・月経、不妊、妊娠・出産、更年期等と仕事の両立支援のためのフェムテック等製品・サービスの PoC 事業（フェムケア製品のための実証は除く）
 - ・希望するライフプランの実現に向けた女性の健康に関する理解促進事業
 - ・女性の健康やライフイベント（妊娠・出産）に伴う悩みや不安に関する相談事業等

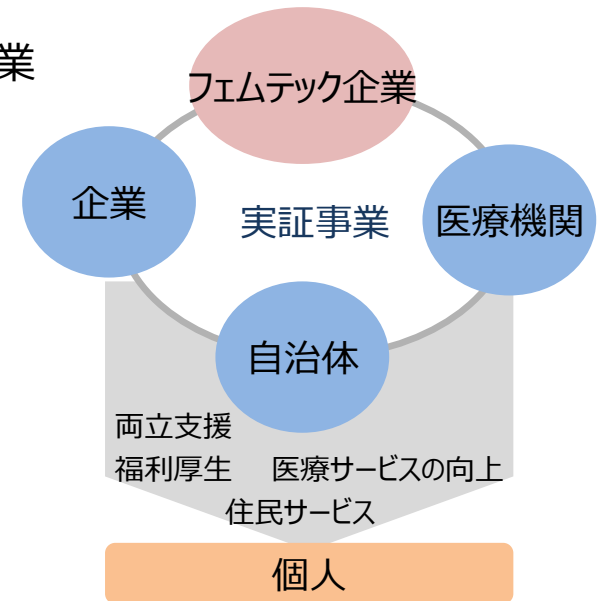
補助対象者

- フェムテック企業、導入企業、医療機関、自治体等による連携体
又は連携体を構成する事業者（単体又は複数を問わない）

補助内容

- 事業費の2/3以内（上限500万円）
- 令和3年度は20件、令和4年度は19件の事業を採択

事業スキーム（対象者、対象行為、補助率等）

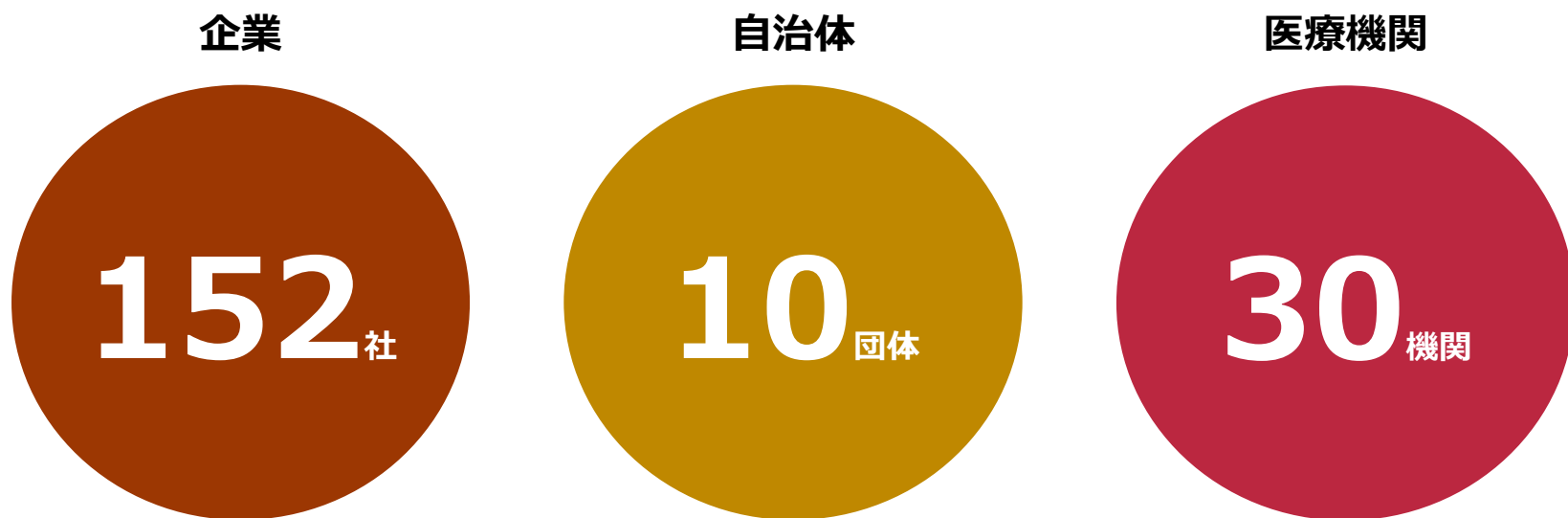


※本事業における「フェムテック等の製品・サービス」とは、女性がライフステージに応じて抱える健康の課題解決に資する事業全般を指しており、技術を利用した事業に限らない。

令和3・4年度フェムテック等サポートサービス実証事業実績

- 令和3・4年度で計39の実証事業を実施。152の企業、10の自治体、30の医療機関が関与し、さまざまなフェムテック等サポートサービスを提供した。

サービス提供者数※

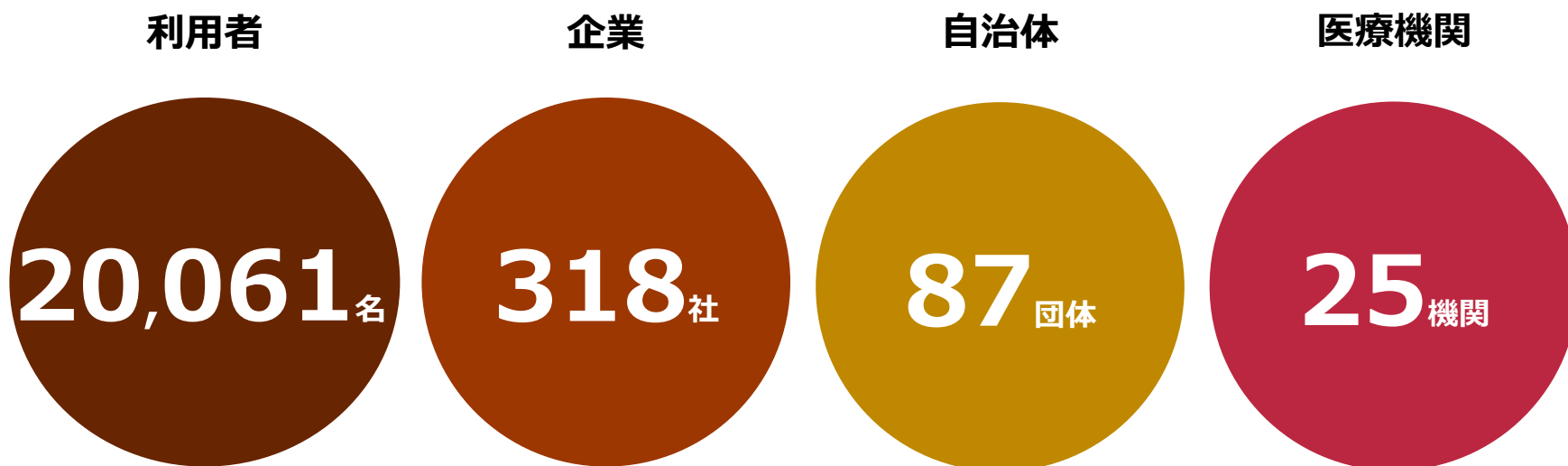


※39の実証のサービス開発～提供に関わった団体の総数。数値は2023年3月10日時点のもの。このほか、学校法人や個人等21者も関与。

令和3・4年度フェムテック等サポートサービス実証事業実績

- 令和3・4年度のフェムテック等サポートサービスの利用者（個人）は20,061、企業は318、自治体は87、医療機関は25にのぼった。

サービス利用者、導入団体数※



※数値は2023年3月10日時点のもの。いずれも延べ数。

令和3年度実証事業例（妊娠・不妊）自治体での実証事業例

「周産期遠隔医療プラットフォームを活用した仕事と安全な妊娠・出産の両立にかかる実証事業」
(メロディ・インターナショナル株式会社)

- 日本発のIoT型胎児モニターによる遠隔妊婦健診をサポート
- 北海道余市町・北後志地域の妊婦と家族を対象に、自治体、地域医療機関と連携した支援体制を検証



「胎児の状態を知る」を
いつでも、どこでも可能にする

産期遠隔医療プラットフォーム「Melidy i」
モバイル胎児心拍陣痛モニター「iCTG」



【事業成果】

これまで難しかった胎児モニタリングが、北海道余市町内で実現

【妊婦・パートナー】

・通院負担、コストの軽減 ・リスクへの不安の軽減

【小樽協会病院】

・出張負担の軽減 ・緊急搬送受入の円滑化

【余市町、消防組合】

PwC ・産科施設不足解消 ・救命救急率の向上、リスク低減

令和4年度実証事業（妊娠・不妊）

「助産師のオンライン相談とAI声解析を活用した就労妊婦等のメンタルヘルス向上」 （株式会社じょさんしGLOBAL Inc.）

- 助産師とのオンライン相談とAI声解析を活用し、「就労妊婦等のメンタルヘルス向上」し、「心身ともに健康な状態で仕事と妊娠、その後の出産・育児を両立できる女性のwell-being向上」に貢献し、することを目的とし、就労妊婦向けオンライン相談や、パートナー向けセミナーを実施。

事業の成果

就労妊婦等向けオンライン個人相談

（助産師と会話を録音し、AI声解析ツールである「Motivel」で現在の感情や活動意欲を解析）

- 声解析の結果から参加女性の不安は軽減しており、アンケート結果でも94.5%の女性が「不安が軽減した」と回答。
- 参加女性が助産師に対して感情や本音を表出したことによって、精神的な安定度が得られ、メンタルヘルス向上に繋がったのではないかと考えられる。
- これにより、就労妊婦や育児中の女性を助産師が継続支援することは、女性のwell-beingの維持・向上に効果的であると示唆された。

就労妊婦等とパートナー向けセミナー

（パートナーと対話するきっかけとなるようなワークの時間を設け、就労妊婦等とパートナーの両者が妊娠・出産・育児の当事者であることを認識する内容を実施。）

- アンケート結果では、理解度は95.9%、満足度も79.2%と高く、就労妊婦とパートナーにとって意義のあるセミナーとなった。
- パートナーシップについて考えるきっかけになったと答えた人も91.7%であり、セミナーは必要な知識を得られるだけでなく、妊娠期から育児期間において重要なパートナーシップの構築や改善に効果的であることが示唆された。

令和4年度実証事業（更年期～産後ケア～妊娠・不妊～月経・PMS）

「アバターを活用した専門家による働く女性のウェルビーイング向上のためのサポート実証事業」 (株式会社BRING)

- 双方がアバターの姿でコミュニケーションがとれるシステムを活用し、働く女性が気軽に健康課題等について助産師にオンライン相談できるサービス「flat.」を提供。
- 女性が健康課題の有無に関係なく、自身の身体に関心を持って生き生きと働けるようサポートすることを目指すとともに、アバター相談時の音声データやアンケート結果を用いて、女性特有の健康課題に関する相談における「アバターの有用性」を実証した。

相談者



＜双方アバターとなり
オンラインで対話＞

助産師



「オンライン相談カウンセリング」は、移動時間の節約に加え、1対1で話を詳しく聞いたうえで具体的なアドバイスをもらえることから、就労しながらでも、意識や行動の変容に繋がりがやすく、リテラシー向上に貢献。

- アバターが介入することにより相談への心理的障壁を下げることができ、その手軽さから相談へのアクセスにも繋がることが分かった。
- 他方、「相手の顔が見えた方が安心する」と感じる人も一定数いたことから、映像パターンの選択制やカウンセラーの写真・プロフィールの表示など、様々なニーズに対応できるような工夫をすることで、相談しづらいと感じている層を「誰一人取り残さない」環境を創り上げることができると考えられる。

令和4年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」 実証事業一覧

※日本全国から19事業を採択

	事業名	代表団体名	事業テーマ							
			月経・PMS	妊娠・不妊	産後ケア	更年期	婦人科疾患	ヘルスリテラシー	その他	
01	最短期間で最大の効果を上げる不妊治療プロトコルを提案するA I (人工知能)サービス	株式会社iCaret (東京都)		●					●	
02	妊活・不妊治療におけるパートナーシップ構築を目的としたコミュニケーション促進ソリューションの効果検証	vivola株式会社 (東京都)		●						
03	ヘルスリテラシー向上(知識の獲得から行動改善まで)を通じた働く女性と組織の活性化をサポートする『トータルウェルネスプログラム』	株式会社SRACreative (東京都)	●			●	●	●	●	●
04	あらゆるトイレの個室にて生理用品を取得可能にするなど「生理ライフ」を快適にし、生理になる人のモビリティを向上	オモテテ株式会社 (東京都)	●	●				●	●	●
05	新入社員向け「女性特有の健康課題に関するeラーニングプログラム」の開発と検証	株式会社Kids Public (東京都)	●	●				●	●	
06	就労妊婦等メンタルヘルス向上と離職防止のための、専門家「助産師」とAI(声解析)による継続的なサポート実証事業	株式会社じょさんしGLOBAL Inc. (愛知県)		●	●					
07	助産師・保育士が24時間体制で産後の親子をサポートする産後ケアリゾート「HOTEL CAFUNE」及び継続的なサポートのニーズ検証と産後ケアの社会認知度向上の実証実験	株式会社水星 (京都府)		●	●					
08	女性特有の出産育児のライフイベントや健康課題を乗り越え能力を最大限発揮できる新しい時代を実現する「『TOTONOERU@ (トノエル)』を活用したレジリエントな企業基盤構築支援事業ver.1」	株式会社天煌堂 (東京都)	●		●					●
09	データ収集プラットフォームを通じた企業のフェムテック導入促進事業	株式会社nanoni (東京都)	●	●		●	●	●		
10	不妊治療当事者のウェルビーイング向上のための心理ケア事業	株式会社ninpath (東京都)		●						
11	フェムテックを活用した企業・自治体の行動変容を促す「伴走型アクティブラーニング・プログラム」実証事業～gender learning innovation～	株式会社陽と人 (福島県)	●			●			●	●
12	アバターを活用した専門家による働く女性のウェルビーイング向上のためのサポート実証事業	株式会社BRING (大阪府)	●	●	●	●			●	
13	女性活躍を推進するための生理用品設備設置とコミュニケーションをデザインする教育事業	わたしの暮らし研究所株式会社 (東京都)	●						●	●
14	セルフトレーニングをサポートするサービス「ペリノス™」とトレーナー指導の組み合わせによる骨盤底筋トレーニング	アルプスアルパイン株式会社(東京都)			●	●	●	●		
15	働く更年期女性の睡眠を可視化したリトリートプログラム実証事業	沖縄セルラー電話株式会社(沖縄県)				●				
16	オンラインコミュニティを使った「女性特有の健康課題や働き方について語り合う」プラットフォームの構築・運用と情報発信事業	株式会社産業経済新聞社(東京都)	●	●	●	●	●	●	●	
17	未病状態のからだケア素材～製品・サービス異業種連携でのワークショップを通じた行動変容プログラムの提供	東レ株式会社(東京都)	●						●	
18	身体症状と音声の分析を用いたヘルスケアとキャリア支援を繋ぐ仕組みづくり	一般社団法人ヘルスサポーターズイノベーション(佐賀県)	●	●	●	●	●	●	●	●
19	運動後の爽快感が味わえる「次世代EMS」を活用した、働く女性のメンタルヘルス・パフォーマンス向上事業	株式会社ポーラ・オルビスホールディングス(神奈川県)	●			●				●

実証事業の成果 共通指標 1（実証事業がキャリア形成に与えた影響）

- 令和4年度は全事業共通の成果指標を測定。
- まず、WHO※の指標を活用して、最高のパフォーマンスを100%とした場合、フェムテック活用前の4週間と活用後で、参加女性のパフォーマンスがどう変化するかを測定。
- 結果、フェムテックの活用によりパフォーマンスが上がることを確認。

- 実証事業に参加した女性の回答によれば、フェムテックの利活用により、仕事のパフォーマンスの平均値は上昇。

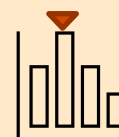
平均値



59.0 → 62.2

- 実証事業に参加した女性の回答の最頻値は50%から80%に向上。

最頻値



50 → 80

※世界保健機関 健康と労働パフォーマンスに関する質問紙(短縮版)日本語版 [riomh.umin.jp/lib/WHO-HPQ\(Japanese\).pdf](http://riomh.umin.jp/lib/WHO-HPQ(Japanese).pdf)

「あなたの仕事において、0が誰でも達成できるような仕事ぶり、10が最も優れた勤務者の仕事ぶりとしたとき、過去 4 週間（28 日間）の間の勤務日におけるあなたの総合的な仕事ぶりを、あなたはどのように評価しますか」という設問に対する回答に10を乗じて算出。

実証事業の成果 共通指標 2 (実証事業がキャリア形成に与えた影響)

- フェムテックの活用前後で、ユーザー自身のキャリア意識・行動への変化を測定。具体的には「イメージできる女性特有の健康課題の解決手法」、「解決手法のうち、既に行動したもの」、「行動した結果、キャリアに与えた良い影響」といった各質問に対する選択肢のうち、選択した個数の変化を前後で確認。
- 回答によれば、各々の段階において、フェムテック活用後は選択した項目が増え、基本的に改善が見られた。実際に、課題の解決のために医療機関を受診する等、複数の行動をとった方も存在。

質問項目例	選択肢例	活用前後での変化 (回答者の選択の割合)
具体的にイメージできる女性特有の健康課題の解決手法	「医療機関受診」、「アプリ等によるセルフモニタリング」、「セミナー受講等」等から選択	3.20→3.20 [※] <small>※小数点以下3桁でみると、3.197→3.203と上昇。</small>
解決手法のうち、既に行動したもの	同上	1.64→1.74
行動した結果、キャリアに与えた良い影響	「勤務が身体的に楽になった」、「昇進や昇格に前向きになった」等から選択	1.15→1.23
健康課題とキャリアの両立のため協力を得たいステークホルダー	「パートナー」、「上司」「同僚」「人事」「自治体の担当課」等から選択	3.85→4.06
健康課題とキャリアの両立のためすでに協力を得たことがあるステークホルダー	同上	1.41→1.48

令和4年度までの実施主体・参加者の声

- サービス利用者からは前向きな声も寄せられる一方で、企業への導入やユーザーの利用継続に向けた課題が明らかになった。

(フェムテック事業者の声)

【ヘルスリテラシー向上】企業において、ヘルスリテラシー向上のための研修や専門家による女性のサポートを実施。

- 仕事、家庭や育児などにより、忙しく過ごす女性にとっては、自身の健康課題解決のために「時間」を割くことや、そのための「費用」を捻出することがハードルとなっている。
- こうした制約を少なくするため、企業においては、福利厚生としてフェムテックを導入し、女性がいつでも気軽に専門家に相談したり、オンライン健康相談を活用できる環境を整えていくことが有用。
- 福利厚生として導入する際には、女性が対象の製品・サービスであることから、不平等と捉えられることが課題。

(サービス利用者の声)

【更年期】デバイスを着用し、睡眠状態を計測。課題解決のためのプログラムを実施。

- 成果が出るまで時間がかかるため、継続して利用するためのモチベーションが重要。使用を継続するための事業者側の工夫が欲しい。

フェムテックの利活用に向けたポイント

- 働く女性の健康課題の解決、ひいては就労継続を目的としてフェムテックの利活用を進めていくためのポイントとしては、女性自身のリテラシーの向上と企業・自治体の理解の促進に加え、フェムテックの効果を見える化していくことが重要。

ポイント

女性個人の リテラシーの 向上



- 無自覚層や無行動層等に訴求するための工夫をすること。
- 同僚や上司等周囲の理解を醸成し、職場の変革を進めること。

企業・自治体の 理解の促進



- 企業であれば経営戦略や人材戦略、自治体であれば総合計画の全体デザインの中で女性の健康の重要性をしっかりと位置づけること。
- “フェム”テックという語感を超えて、これが単なる女性だけのための取組ではないことについて、事例等を用い企業や自治体へ周知を進めていくこと。

効果の見える化

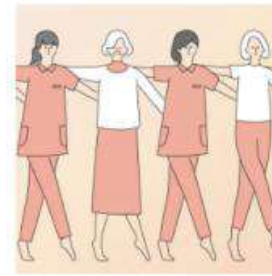
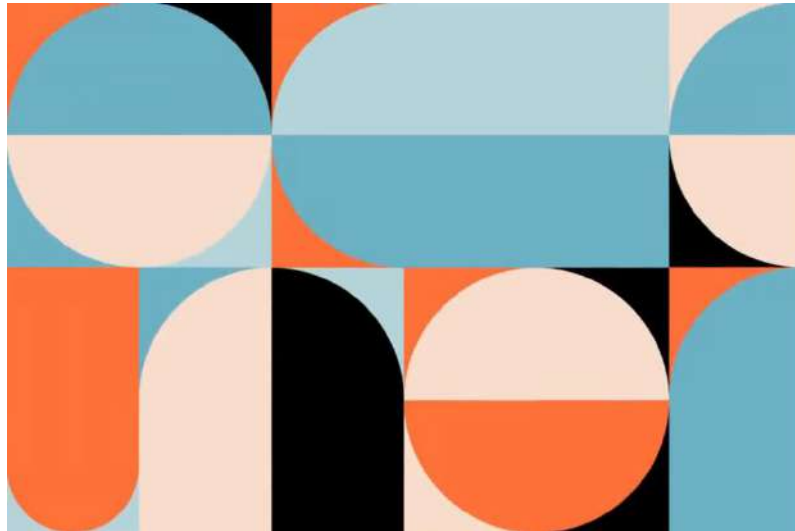
- フェムテック活用の成果のデータを蓄積し、サービスの信頼度の向上や活用の動機づけにつなげていくこと。

実証事業ウェブサイト

<https://www.femtech-projects.jp/>

新しい当たり前をつくり
女性が働きやすい社会を

Femtech



一般財団法人ウェルネスサポートLab

女性特有の問題について、友人のように気軽に相談できる「フレンドナース」サービス

月経・PMS 妊娠・不妊 産後ケア 更年期

婦人科疾患 ヘルシナラシー



vivola株式会社

女性活躍推進と少子化対策の実現を、女性の仕事と不妊治療の両立をシステムでサポート

妊娠・不妊



株式会社Kids Public

オンライン定期支援プログラムが働く女性の健康課題にどのような効果があるか検証

月経・PMS 妊娠・不妊 産後ケア 更年期

婦人科疾患



医療法人英徳会

約500人の助産師・看護師が、ライフステージで変化する女性の悩みに耳を傾けアドバイス

月経・PMS 妊娠・不妊 産後ケア 更年期

婦人科疾患 ヘルシナラシー その他



社会医療法人博愛会 相良病院

コロナ禍で働く女性の体の悩みを医師がオンライン医療相談でサポート

月経・PMS 更年期 婦人科疾患 その他



シャープ株式会社

生活用品のIoT収納ケースを使って買い忘れと在庫管理のストレスから解放

月経・PMS ヘルシナラシー



株式会社ジョコネ。

働く女性が更年期症状を理由にキャリアをあきらめないためにサポート

更年期 ヘルシナラシー



株式会社シンフォニア

テクノロジーで母体と赤ちゃんの情報を正確に把握し、出産への希望や幸福感を増進

妊娠・不妊



株式会社ステルラ

経活・不妊治療の知識向上を促し、男女ともに働きやすい環境づくりにつながる

妊娠・不妊